シラバス参照（情報社会と情報倫理）

開講科目名 Course	情報社会と情報倫理／Information-Oriented Society and Information Ethics
時間割コード Course Code	30550
開講所属 Course Offered by	大学共通／
開始年度・学期 Start Year・Semester	2024 年度／Academic Year　　後期
曜限 Day, Period	水／Wed　3
開講区分 semester offered	後期／.
単位数 Credits	2.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	吉川　伸一
科目区分 Course Group	専門科目群 隣接科目／SPECIALIZED SUBJECTS Adjacent Subjects
教室 Classroom	６４Ａ大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
授業の目標	情報技術が日々進化していき、我々の生活や企業などのビジネスはより利便性を増している。その一方で、情報倫理の理解と整備が技術の進化に追いついていないような面もある。 本講義では、今日のような情報技術に依存している社会を生きていく上で、社会の状況を正しく理解し、情報倫理の在り方を探ることにより、望ましい情報社会づくりに貢献できる能力を身に着けることを目標とする。また、AI（人工知能）の技術進歩によって、ビッグデータから様々な価値を創出することができるようになり、社会に大きな変化をもたらし始めている。AI は身に着けるべき素養と言えるが、AI が社会に受け入れられるために考慮すべき論点についても学ぶ。 ＜学習成果＞ ◆知識・理解の領域

シラバス参照（情報社会と情報倫理）

	・情報倫理とは何か、ネット社会と言われる現代においてなぜ情報倫理が必要なのかに関する知識を身に着けている。 ・人が創り出す創作物に関する知的所有権を理解し、著作者と利用者双方の権利を守って活用していくための法や知識を理解している。 ◆技能・表現の領域 ・情報倫理の役割や内容を他人に説明できる。 ・情報倫理が定義されることで、守られている社会の秩序を説明できる。 ◆態度・志向性の領域 ・個人レベルの情報倫理はもとより、企業に求められる情報倫理について自ら進んで調べるようになる。 ◆思考・判断の領域 ・企業経営における情報倫理の在り方や役割を理解した上で、企業が継続的に競争上優位に立つことができるような戦略を思考することができる。 ・AI やビッグデータの特徴を理解し、正しい使い方及び人に代わって判断することの危険性について独自の着眼点を持つことができる。 ・文理融合的な観点から、社会科学領域における社会課題を統計等を用いた分析により、可視化などを通して解決に導くことの重要性を知っている。 ◆関心・意欲の領域 ・生活する上で知っておくべき情報倫理に関心を持つことができる。 ・情報倫理関連の記事に関心を持つことができる。 ◆体験・探究の領域 ・安全かつ安心して暮らせる社会を築いていくために、情報倫理と呼ばれる情報に関するモラルやルールをよく理解し、実践することを体験できる。 ・AI が社会に受け入れられるために考慮すべき論点について積極的に学ぶ。
授業の概要	現代社会は情報社会と言われ、情報システムに強く依存している。このシステムなしでは社会は成り立たない状況になっている。授業の前半では、社会における情報の位置づけと情報システムの役割を中心に学ぶ。 授業の後半では、安全かつ安心して暮らせる社会を築くために情報倫理という情報に関するモラルやルールを理解し、実践していくことの重要性を中心に学ぶ。 ※この科目の位置づけについては、本学 HP のナンバリングを参照すること。
評価方法	参加姿勢を見る（15%） 毎回授業の終りに小レポートを実施する（30%） 通常レポートを１回実施する（25%） 期末試験を行う（30%） ※特別な事情がない限り遅刻や欠席には厳しく対処する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	・出席回数が 13 回に満たない場合 ・連続して 3 回欠席した場合 ※特別な事情があって欠席した場合は、考慮する。

シラバス参照（情報社会と情報倫理）

授業計画	第１回：情報通信社会とインターネット・進化と変遷 第２回：ネット社会のコミュニケーション 第３回：メディアの変遷 第４回：メディアリテラシー 第５回：情報通信社会とリテラシー、ソーシャルネットワークサービスと情報モラル 第６回：情報技術とセキュリティ 第７回：デジタルデバイドとユニバーサルデザイン 第８回：個人情報の取り扱いとプライバシー保護 第９回：情報倫理とは、デジタル万引き 第 10 回：肖像権、著作権の正しい考え方、知的所有権とコンテンツ(1) 第 11 回：知的所有権とコンテンツ(2) 第 12 回：ビッグデータと AI の倫理、AI の社会的受容性 第 13 回：企業と情報倫理 第 14 回：科学技術と情報倫理 第 15 回：インターネットと犯罪、全体のまとめとふりかえり、期末試験対策
テキスト	教員が作成した紙ベースの教材を毎回配布して授業を進めていく。
参考書	高橋慈子、原田隆史、佐藤翔、岡部晋典　著「改訂３版　情報倫理　ネット時代のソーシャル・リテラシー」、技術評論社 山住富也　著「ソーシャルネットワーク時代の情報モラルとセキュリティ」、近代科学社 Digital
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	・Slido（スライド）を用いて質問を行い、それに対する回答を求めることがある。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メール対応（メールアドレスは授業中に提示する）
フィードバックの方法	毎回小レポートを課す。その内容を見て、理解が足りないと判断した部分については次回の授業で復習する。 期末試験については、その成績評価をもってフィードバックとする。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎回の授業において、次回テーマに関する文献調査、情報の分析、資料作成などに４時間の準備が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17 の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに

シラバス参照（情報社会と情報倫理）

SDGs 17 の目標（11～17）	11.住み続けられるまちづくりを
PROG リテラシーの要素	1.情報収集力 2.情報分析力 3.課題発見力
PROG コンピテンシーの要素	6.行動持続力 7.課題発見力

No.	回 Time	主題と位置付け（担当） Subjects and position in the whole course	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	1 回	情報通信社会とインターネット・進化と変遷	現代は「情報通信社会」と呼ばれている。情報通信社会の変遷を社会の変化と共に把握しておく。	
2	2 回	ネット社会のコミュニケーション	ネットマナーと呼ばれる新しいマナーに気を付けることなど、サービスを上手に使う方法を知っておく。	
3	3 回	メディアの変遷	コンピュータやインターネットによって、情報とメディアがどのように変わってきたか、そして今後さらにどのように変化していくのかを一緒に考える。	
4	4 回	メディアリテラシー	情報を読み取り、発信し、主体的に行動できる能力、メディア・リテラシーを養う。	
5	5 回	情報通信社会とリテラシー、ソーシャルネットワークサービスと情報モラル	インターネットを利用する我々が情報を取り扱うとき、どのような能力（リテラシー）や知識、姿勢が必要なのかを確認しておく。	
6	6 回	情報技術とセキュリティ	パソコンやスマートフォンでインターネットを使うならば、セキュリティ対策を行うことは必要不可欠であると捉え、実践していく力を身に着ける。	「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」の応用基礎レベル、モデルカリキュラムの 2-6 に対応
7	7 回	デジタルデバイドとユニバーサルデザイン	ユニバーサルデザインの考え方や事例を知って、情報発信にどのように生かせるのかを一緒に学んでいく。	
8	8 回	個人情報の取り扱いとプライバシー保護	個人の情報とプライバシーが、情報通信社会の中でどのように変わってきているのか、どう捉えるべきかを理解していく。	「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」の応用基礎レベル、モデルカリキュラムの 3-2 に対応
9	9 回	情報倫理とは、デジタル万引き	「倫理」とは現代社会において、どのような意味を持っているのか、なぜ重要視されるのかを知っておく。 なぜデジタル万引きが問題となるのかを一緒に考える。	

シラバス参照（情報社会と情報倫理）

10	10 回	肖像権、著作権の正しい考え方、知的所有権とコンテンツ(1)	肖像権や著作権について正しい考え方を身に着ける。 人の知的創作活動で形になったものを守るための知的所有権の考え方を一緒に学んでいく。	
11	11 回	知的所有権とコンテンツ(2)	著作者及び利用者の権利の両方を守って、活用していくための法律を一緒に学んでいく。	
12	12 回	ビッグデータと AI の倫理、AI の社会的受容性	大量のデータすなわち「ビッグデータ」の概要について理解を深める。 また、AI とはそもそもどのような技術なのか、人間に代わって判断することの危険性、そしてこれからどのように活用していくべきかを一緒に学習していく。	「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」の応用基礎レベル、モデルカリキュラムの 2-1 及び 3-2 に対応
13	13 回	企業と情報倫理	情報技術が企業の健全性をどのように確保するのか、企業の構成員である従業員や関係者は情報をどのように扱うべきかを一緒に学んでいく。	
14	14 回	科学技術と情報倫理	科学技術の進歩と倫理について、どのような知識や視点を持つべきかを一緒に考える。	
15	15 回	インターネットと犯罪、全体のまとめとふりかえり	コンピュータ・ネットワークを利用した犯罪として、どのような犯罪があるのかを明らかにする。 現代のネット社会特有の犯罪を防止するために設定されている法律について一緒に学んでいく。	